

3か月前から会場準備等を行いました。秋の多忙な時期でしたので、急に欠席された方もおられ、結果19名の参加で行われました。

前会長松崎様の乾杯の音頭で幕を開け、食事を取りながら焼成会、作品展、懇親会の映像を見ました。参加者一同当時は振り返りながら懐かしい思い出話に花が咲き、2時間及以上ぶパーティーとなりました。各テーブルには広報部保管の「横浜陶芸友の会だより」創刊号から最新版までのファイルがあり、みなその当時のことを思い出しながら、見入っていました。帰りには記念品として創刊号のコピーをお持ち帰りいただきました。今後このように会員の皆さんが楽しめる企画を計画しますので、振るって参加いただきますよう宜しくお願いします。

## 創設40周年記念パーティー

高橋 光男



# 横浜陶芸友の会だより

第163号

平成27年

11月1日発行



## 40周年に思う事

石井誠一

わたくしが横浜に移り住んで37年になりますので、友の会の歩みとほぼ同じ時間の流れを感じています。

友の会にお世話になったきっかけは、妻が友の会の作品展を見てわたくしに相談もなく勝手に申し込んでしまったのが始まりです。わたしの作品展デビューは翌年だと思いますが、教育文化会館の二階の狭い部屋でした。水差し一個持って行ったのですが勝手が分からず名前だけ貼って帰ってしまったのを今も思い出します。2・3日して会場に恐る恐るいつてみたら「黒釉」と書いてありました。後で聞いたのですが誰のだから判らずだいぶ苦労したと聞きました。

わからないまま懇親会にも参加しました。ここでも借りてきた猫のように、もう一人の新人「山中さん」と二人テーブルで飲んでいたら、松崎さんに目をつけられ、事業部に誘われました。以降長い間事業部にお世話になりました。

担当は主に自分の職業柄、窯場見学会の手配を行ないました。以前は旅行会社におねがいしていたようですが、観光とちがうので双方で戸惑っていたようです。各窯場には下見と本番と2回行く事になり、下見が7月の暑い中訪問する先生の都合に合わせ、同じ道を行ったり来たりしました。鍋島さんがナビゲ

「ターを受けもち、清水さんは、訪問する先生との折衝役、私は、手配と時間割と見積もり会計を担当しました。多くの人間国宝の方々とも逢いました。順不同ですが三浦小平二氏・三輪休雪氏・山田常山氏・徳田八十吉氏・伊勢崎淳氏・鈴木蔵氏などまだ漏れているかもしれません。  
濱田庄司氏・山本陶秀氏・藤本能道氏の仕事を拝見させていただきました。  
振り返ると楽しい陶芸人生でした。 「感謝」



**40周年記念パーティーで思う事**

大内 広子

陶芸友の会も 40 周年、私は 35 年ぐらい経つかしら？

センターを卒業して、すぐ友の会のメンバー及び役員になって歴代会長にお会いしました。青嶋初代会長、松尾氏、川井氏、3 代会長達と気さくにお話していただいたことを思

い出します。

次の会長は在任中怖くて近づきたい先輩作品が示す通り美しい青磁のピチツとした形の作品で、(私の作品はいつも「不揃い!」とおっしゃられ・・・) 会長を退かれてからやつと、親しく会話できるようになった江口さん。江口さんからは、織部の小皿をセットで頂きました。これは私の大切な器たちです。そして、フランクな高村会長。高村さんはいつとき馬上盃に凝っていて1つ作品をいただきました。嶋田会長は不慮の事故で、一緒にグループ展もやった仲間でしたのに残念でした。絵付けの美しい壺と、いただいた「こて」が今でも役立っています。

これ以降出淵さん、松崎さん、高橋さんに引き継がれている友の会です。

そうそう「私のいっぴん」は茶碗2個です。お二人とも茶碗を沢山つくり研究熱心な方でした。成田さんはいつもの茶碗を焼成に持って来て、ある時、この右側の茶碗の色があまりにも素敵だったので、ほめちぎって! もらってきました。

竹内さんは我々女子会と仲良しでお宅に伺ったり、美味しいものを食べに行ったりと、陶芸談議に花を咲かせました。青磁はすばらしく下の左側の茶碗も私が頂いた中の大好きな作品です。

お二人とも亡くなってしまいましたすが、時々お茶碗を出して、懐かしんでいます。



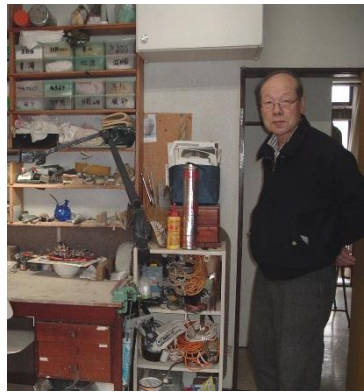
青磁茶碗 竹内さん 作



抹茶茶碗 成田さん 作



焼成窯を持ち、日夜作陶に勤しんでいる会員の方をお訪ねし、その作業場や作品作りへの思いなどを、皆様にご紹介していく第六回目は、長い間「友の会」を支えてこられたホームページと広報部を担当している吉良謙さんです。



作業場にて

【吉良謙さんの談話】

① 陶芸をはじめのきっかけは？

・陶芸との関わりは、小学6年生の夏休みの自由課題で沓型茶碗を作り、級友の作品と共に京都東山五条坂の清水焼の窯元で焼いてもらった。祖母の家に行くときも抹茶茶碗で飲んでいた事もあり、手が型やパランスを覚えていて、環境的にも目だけは肥えていた。

② 長く続けられたのは？

・「友の会」会員としては妻が本牧の陶芸教室を卒業した次の年に、「おもしろいから」と勧められて行ったが、定年退職するまでは仕事優先で陶芸にはのめりこまなかった。焼き物は原理原則がわかっていないと失敗する。失敗してもおもしろい色んな発見がある。趣味の陶芸は「やっちゃった」と笑える。それもいい。



電動ロクロと焼成窯

③ 作陶はいつおこなっていますか？

・灯油窯は焼成時の音の関係でご近所への配慮もあり日の長い春から夏にかけて作陶



④ 今後、作陶への課題は？

・今はテーマを決めて作陶をしている。「食べ物に関する物」で、お酒のお猪口、徳利、肴を載せる皿など。今年の作品展に出した「ご飯炊き鍋」はおもしろそうだから続けてみたい。

⑤ その他

・最近、ロクロをやっても手が震え、足が踏ん張れず大物が引けなくなった。記憶力や手順がお粗末になり手際が悪くなった。パソコンを新しく変えたが扱いが分からずストレスになっている。ITは昔の知識がかえって邪魔をする。広報やホームページの担当もそろそろ潮時だなど思っている。

ご飯炊き鍋



○吉良さんのお宅は、京急富岡駅から徒歩20分程の住宅地にありました。

京都の某老舗料亭の子息が器を学ぶために鎌倉の魯山人の窯場で修行した話など、本当に楽しいお話が盛りだくさんでした。

ぜひ、呑み会の席で皆様もお聞きになると楽しいですよ。

(文責) 鍋島弘義

## 秋期焼成会報告

専修部 井上 明

昨年に引き続き木の葉天目にスポットを当て、第 2 回目の焼成になりました。昨年の反省と経験をもとに、今回は天目焼成済作品に木の葉を乗せるという昨年と違う手法を採用し事前に数回試し焼きをしてからの挑戦となりました。

日程は 9/6 日（日）10：00～ 作品受付  
 17 日（木）9：00～ 素焼窯入  
 18 日（金）17：00～ 素焼窯出・・・アクシデント発生（何故か素焼できていない）  
 20 日（日）9：00～ 自宅にて素焼きされ当日持ち込まれた作品のみ釉掛け  
 21 日（月）9：00～ 再度素焼窯入  
 22 日（火）17：00～ 素焼窯出  
 23 日（水）9：00～ 釉掛け→窯詰→点火  
 25 日（金）17：00～ 窯出  
 27 日（日）10：00～ 引渡し後、懇親会

上記のように 18 日の素焼窯出時に素焼きが出来ていないというアクシデントが発生（過去にも一度あったが、その時は停電が原因だった。今回は？）。その為 21 日急きょ再素焼をし、その後の日程にどうにか合わせる事が出来ました。参加者及び部員の皆様のご協力に感謝いたします。

27 日の引渡し日には、木の葉が出ているか、それぞれが不安な様子で教室に入っこれ作品の出来栄えというより、まず木の葉が出ているかに話が集中したように思います。その後暫し陶芸談義で盛り上がり、それがまた明日への活力になるのではないのでしょうか。最近土とご無沙汰しているという方は居ませんか、駄目ですよ。是非一度ご参加下さい。（昔、高村会長時代に、「仕事ばかりして・・・作陶しなくちゃ駄目だよ」と言われたことが思い出されます。）

恒例の参加者一品持ち寄りでの懇親会でまたまた大いに盛り上がりました。いつもながら広報の小松さんより今旬の栗ごはんと秋刀魚の差し入れを頂き感謝。

結果① 参加者 12 名  
 作品点数 104 点  
 作品重量 29.53 kg

### ②木の葉天目について

焼成済み作品に木の葉を乗せたものが高い確率で転写された。（写真①参照）

木の葉に金液、弁柄、下絵具、ケイ酸ソーダ等試みた（写真②参照）

### ③他の釉薬作品について

年に一度の焼成のためか、水分が蒸発し濃度管理が難しく今後の管理方法を再検討する必要あり。

作品受付時



窯詰写真





写真①



写真② 金液



写真② 下絵具



引渡し



楽しい懇親会でした

来期に向けて

6 年程前から専修部で粉引に力を入れています。(平成 21 年益子にて白化粧研修)  
今まで酸化で焼成してきたが、今回還元で焼成したものと比較し、更なる化粧土の配合、焼成法等検討し、来年度は「粉引」をメインテーマにする予定です。



還元にて粉引焼成

# 『第37回 作品展』のお知らせ

事業部

『作品展』の会場は、昨年度と同じJR東神奈川駅に近い「かなつくホール」です。  
申し込み方法と作品展の詳細については、広報の11月号と一緒に会員の皆様に送付いたしました。

昨年度は、展示機の奥行きが狭くなり、作品が並びきれなかった方もいたようです。  
区画はギリギリではなく、ゆとりのあるスペースでお申込みください。

また、出展された方にお願ひですが、会期中半日でも結構ですので一度は当番をお願ひします。

会員皆様方の一人でも多く、一点でも結構ですので、上手、下手ではなく、陶芸を愛好する者として参加していただきたいと思ひます。

# 陶陶さん

第 85 号

あかほし

天候不順が続いてますね。健康に気をつけて頑張らしましょう。



【会期】平成28年1月12日(火)～17日(日)  
 【会場】かなつくホール A室  
 (JR東神奈川駅 下車3分)  
 【特設コーナー】「抹茶茶碗」※出展料は無料  
 ・今までに展された作品でも結構です。  
 お気に入りの「抹茶茶碗」をぜひ一点、出展されることを期待しています。

### 8月役員会の報告

8月22日(土) 会長 副会長各役員11名で話し合いました。

各部報告

- 作品展の会場、日程が決まりました。
- 焼成会のお知らせ
- 友の会だより年3回の発行に決まる。
- 40周年記念行事について。

総務

色がとてもすてき!



## 私の一品

本橋昭彦

55歳の時に初めて挑んだ思い出深い大皿  
釉薬は油滴天目銀鼠釉を荒くガン吹きし、其の上に赤結晶釉を渦巻き状に施釉。  
会社の陶芸クラブ入部2年目の挑戦でした。



次号から「私の一品」で会員全員順番に登場していただきますので、宜しくお願いします。

広報部

ホームページもチェック!!

横浜陶芸友の会

検索

<http://www20.atpages.jp/tomonokai/>

横浜陶芸友の会だより  
第 163 号

(平成 27 年 11 月 1 日 発行)  
発行人 横浜陶芸友の会